

中学校区におけるめざす子ども像： 積極的、主体的に学び続ける子・自ら学び、共に考える子

堺市立東百舌鳥小学校
校長 川人 慎二

学校教育目標 「ゆめを持ち、自分の良さを伸ばし、自分も人も大切にできる、心豊かな子どもの育成」
令和7年度 学校重点目標 「心地よい学びがあふれる学校づくり」
●わくわくする心地よさ： 知的好奇心を刺激し、子ども自身が「問い」をもち、主体的に解決していこうとする学びを実現する。
●安心できる心地よさ： すべての子どもたちにとって学校や教室が安心できる場となるよう、子どもたち一人一人が自分も他者も大切にしようとする心情の醸成を図る。
●達成する心地よさ： 学習、生活場面の中で個人また集団での「できた」「わかった」体験を積み重ね、集団としての自尊感情を高める。

確かな学びの現状	豊かな心・健やかな体の現状
各学年での計画的、組織的な取り組みは継続して行っているが、まだまだ改善を期待できることが多い。特に本校では、昨年度「書く」力の向上を目指した研修を重ね、子どもたちが自分の思いや願い、感情を相手に分かりやすく伝えられるようにすることをめざした。継続的な取組の成果として、「はとぶえ」に掲載された作文や詩の数が増したり、体感として、書くことに対する壁が低くなっている児童がいたり、さまざまな場面で、その成果が表れるつつあるが、十分とは言えない。今年度はこれまでの研修を生かし、子どもたちの主体性を育むことに重点を置き、その力がしっかり発揮され、育つ指導・支援を実行していきたいと考えている。子どもたちが「やってみたい」「わかるようになりたい」といった自らの意思で学ぶ姿を表出したいと考えている。そのためには、各教科の魅力をふんだんに味わえるおもしろい授業が欠かせない。教職員で研修を重ね、本校の児童の実態に合わせた具体的な指導・支援方法を確立していきたい。	学校のルールや集団行動については、組織的に継続した取組を行っているが、課題が残る部分がある。研修の充実を図るとともに、学校のルールや集団行動について児童が主体的となって活性化した取組を行いたい。また、規範意識の向上についても粘り強く取り組んでいきたい。特別支援教育については、校内支援委員会のさらなる組織的な取り組みの強化を行いたい。今後も、学力向上と学級経営を基盤とした人権教育、特別支援教育を含めた組織的な生徒指導体制を一体的に進めるとともに、保護者・地域の支援・協力を得て、学校・保護者・地域で子どもを育てていく取り組みを推進したい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎基本の定着	言語活動を重視し、基礎基本の定着を図る。	朝の学習(火・木・金)の時間の定着を図り、基礎・基本の力をつける取り組みを継続する。 金曜日は書くことに重点を置いた学習をする。	単元テスト(知識技能)90点以上	単元テスト	学期末					
			●読書活動を推進する。 水は朝の読書タイムとし、学校全体で読書に取り組む。	・読書ノート of 読了状況の調査(改良した読書ノート) ・堺市児童生徒学習生活状況調査で「本が好きで、たくさんの本を読んでいる。」の項目→肯定70%以上	・読書ノート ・堺市児童生徒学習生活状況調査	学期末 年度末					
			●家庭学習確立のための取り組み。	・自主学習ノート活用状況 ・堺市児童生徒学習生活状況調査で「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目で堺市平均、もしくは前学年の結果を上回る。	・自主学習ノート ・堺市児童生徒学習生活状況調査	学期末 年度末					
	指導の工夫・改善	教職員研修を充実させ、児童の基礎的・基本的な知識や技能を活用して、問題を解決できる教職員の指導力の向上を図る。	●全学年で研究授業を行い、当日の授業参観だけでなく、事前の指導案検討や事後の研究討議会などを通し、教職員同士の意見交流を深めながら、授業力をともに高め合う。 ●中・高学年への専科指導及び教科担任制の導入による授業の質の向上、および授業担当時間の削減の推進をはかり、担任と個々の児童が十分に向き合える時間を確保する。 ●ICT機器を活用することで、児童が主体的に授業に取り組めるように指導する。 ●自力解決に率先して取り組むための支援を行う。(ノート指導、教室や板書への掲示物、前時の復習やつまづきへの支援 など)	・全学年による研究授業および事後討議会 ・児童アンケート「先生はわかりやすく勉強を教えてくれる」の肯定的解答が90%以上 ・堺市児童生徒学習生活状況調査の「勉強しているときに、わからないことがあってもあきらめずに取り組んでいますか」の項目→堺市平均を上回る。 ・堺市児童生徒学習生活状況調査の「問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」の項目→堺市平均を上回る。	・研究授業の実施状況 ・学校アンケート ・堺市児童生徒学習生活状況調査 ・授業観察 ・児童のノートなどの成果物	学期末 年度末					
豊かな心			人権教育の指導内容、指導方法を研究し、授業を実践し、仲間づくりとコミュニケーションの向上を図る。	・授業の中で、ペア活動・班活動を取り入れ、交流の場を増やしている。	授業の観察 実践報告書(人権ウィーク)	随時 年度末					
			総合的な学習の時間・生活科と人権教育とのかかわりを年間計画に位置付け、各学年の学習の流れに見通しを持たせる。	・年間指導計画を作成し、計画的に実施している。	年間指導計画	年度末					
			研修指導委員会を通して、困っている子どもを報告する機会を設け、月ごとの変化や成長を学校全体で共有する。	・配慮が必要な児童の実態を把握し、児童理解を深める。	毎月の研修指導委員会	毎学期					
			道徳の授業や人権教育をはじめ、普段の生活の中で、ちがいを認め合い、たがいに思いやる優しさを育てるために人権テーマを設定し、人権の講話や授業実践に取り組む。	・(3～6年生)学校アンケートの「人の気持ちが分かる人になりたいと思いますか」という項目で、「当てはまる」という回答を90%以上にする。	学校アンケート	年度末					

心・健やかな体	成	い、させない子を育する。 ・いじめ、暴力をしない、させない子を育てる。	●(特別支援教育に関して) ・様々な課題や困難を抱える児童の特性や発達段階に応じた指導の工夫と、授業のユニバーサルデザインを推進する。 ・児童や保護者の困り感に寄り添い、教育相談を充実させる。 ・支援を必要とする児童に対して個別の支援計画・指導計画を作成し、コミュニケーション能力や自己肯定感を育む。 ・支援学級、支援学級児童の理解啓発を進め、インクルーシブ教育の推進を図る。 ・支援学級・通級指導教室・不登校支援教室・通常学級の連携を強化する。	・児童のアセスメントを通して、具体的な支援・対応策を検討する。 ・職員一人ひとりのスキルアップをめざして、校内研修を実施する。	授業の観察 研究授業 教室環境	年度末							
	規範意識の育成	学校のルールや集団行動を身に着ける。	日常生活に関して ・あいさつの励行 ・帽子や名札の着用 ・チャイムを守る ・清掃指導の推進 ・いじめ事象の未然防止・早期発見・解決 ・集団行動指導の徹底 (集合、整列、話を聞く姿勢)	・あいさつができる。 (あいさつレベルの設定、活用) ・チャイムで素早く行動ができる。 ・帽子を登下校時必ず着用している。 ・名札を毎日必ず着用している。 ・積極的に掃除をしている。 ・いじめやいじめにつながりそうな事象を先生や保護者、友達に相談して解決している。	児童観察 生活の記録 アンケート 児童観察	随時 学期末 年度末							
健やかな体	健康で丈夫な体づくり	健康・安全について理解を深め、運動に親しめるとともに、体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	保健に関して ・毎月の安全点検 ・児童に応じた安全指導 ・保健について啓発活動	・保健安全委員会を通して、安全面について考え、怪我・事故の防止に努める。 ・危険を予想し、怪我や病気・事故をしないよう注意して行動できる。 ・ほけんだよりや保健室前掲示を活用し、児童・職員の安全に対する意識を高める。	・児童観察 ・安全点検表 ・保健室利用状況	随時 年度末							
			体育指導・体力向上に関して ・高学年体育専科による他学年への授業の実施 ・なわとびタイムの実施	・新体力テストの記録を比較(4月と2月に各学年1クラスを抽出し実施) ・なわとびタイムの参加状況	・新体力テスト ・児童観察	随時 年度末							
			望ましい食生活習慣の確立に関して ・全学年で朝食に関する指導 ・全学年で食品ロスに関する指導 ・生活習慣アンケート結果を活用した啓発 ・長期休業中に食事作りの課題を実施	・朝食を毎日食べると回答した割合85% ・給食を残さず食べていると回答した割合50% ・食品ロスについて知っていると回答した児童の割合90% ・自分で食事の用意ができると回答した割合85%	・教職員アンケート ・生活習慣アンケート	学期末 年度末							
			生活習慣の確立に関して ・アンケートの実施やアンケート結果を活用した啓発	・みんなくアンケートで「毎日、何時頃にねますか」の項目で、前学期より早く寝る児童が増えている。 ・みんなくアンケートで就寝時間が10時までの回答児童70%以上	・みんなくアンケート	学期末 年度末							
校長より(年度末)							学校関係者評価者から(年度末)						